

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2023  
**秋**  
No.50

# JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

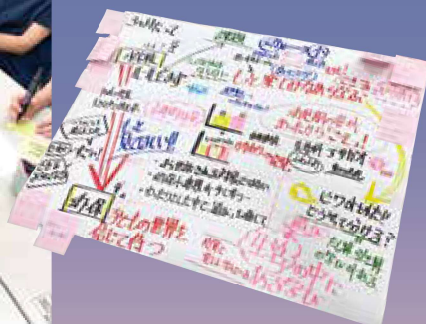
国立大学法人  
上越教育大学  
Joetsu University of Education

学園だより

特集

先生だって学んでる!

## 教職員のための 自主セミナー



**教員就職率 全国トップクラス!**

学校教育学部 **82.4%** 教員就職 **117名**  
全国第2位

教職大学院 **95.9%** 教員就職 **71名**  
(現職教員を除く)



※令和4年3月卒業・修了者の就職状況





# 研究室

人の心を理解するために  
自分の心を理解する

## へようこそ

目立たないけど大事な「黒子」

臨床心理学は、人間の行動や不応を科学的観点から理解、軽減、また予防を目指す学問です。私は、臨床心理学の専門家としてスクールカウンセラーとしても活動しています。多くの児童生徒は、日々の生活を元気で笑顔に過ごしています。一方、不登校や人間関係の問題など不適応状態になる子どももいます。担任の先生は、その子をどのように理解し、関わったらよいのか大変悩みます。教育相談には、教職員のチームで対応していきます。そのなかでスクールカウンセラーは、臨床心理学の専門家の立場から助言・支援をしていきます。スクールカウンセラーには子どもに直接会って面談するイメージがありますが、実際は保護者との面接、担任などの先生との連携や助言、学校外の社会資源（病院や児童相談所など）との調整など、児童生徒の目的づくりにくい役割をしています。つまりチームの「黒子」ですね。黒子をしながら、全体的な視点から支援が円滑に進むようにフォローをしていきます。子どもが元気になること、関わるのがなくなり少し寂しいですが、先生方から報告を聞くことでやりがいを感じます。

近藤 孝司 (こんどう たかし) 臨床・健康教育学系 准教授

専門は臨床心理学、心理アセスメント。中央大学大学院心理学研究科臨床・発達心理学専攻博士後期課程修了。博士(心理学)。臨床心理士・公認心理師。2014年10月着任。本学着任前は精神科病院の心理士として活動し、現在はスクールカウンセラーとして活動中。最近では、心理職などの対人専門職の職業的発達とメンタルヘルスに関する研究を進めている。趣味は登山、ご朱印巡り。



自分のことを知る

どうしたら効果的な実践ができるのだろうかとか試行錯誤しながら心理職として活動していく過程で、そのような「方法論」だけでなく実践者自身、つまり「資質」の成長も大切ではないかと気づきました。使用する者が成熟していなければ、エビデンスのある介入法も十分な効果を発揮しません。それから心理職の職業的発達とメンタルヘルスの研究を始め、さらに関心は、看護師や教員、福祉職などを含めた対人援助職に広がり、ケアを担う専門職のケアに関する有効的な取り組みを研究しています。

人間を理解し、ケアやサポートするには、まず自分自身への気づきを高め、メンテナンスすることが大切です。「医者の不養生」というように、当たり前とわかっていてもなかなかできないものですが、当たり前なものほど重要であると言えます。学生には、様々なことにチャレンジすることで自身の特徴を理解し、良い状態を保つためには何が必要か、独自の「取説」を仕上げてほしいと思っています。



## 毎日が学び!

### 尊敬できる仲間

私は女子バスケットボール部のマネージャーです。選手のサポートや練習中のタイム操作、大会の運営などが主な仕事です。女子バスケットボール部では、毎回練習の最後に行うゲームから課題を設定し、次の練習で改善することを繰り返しています。毎日努力を積み重ねた結果、今年の春の北信越大会では2部昇格という目標を達成することができました。

マネージャーとして、選手の努力が実現された瞬間は私も幸せです。日々の努力を怠らない選手を尊敬していますし、サポートができることを誇りに思います。毎日私も頑張ろうと身が引き締まる思いです。

### 将来につながる

私は現在、小学校の先生になるために勉強をしています。将来は子どもとともにいつまでも学び続ける先生でありたいと考えています。上越教育大学では、1、2年生の頃から「学びのひろば」やボランティアの授業を通して子どもたちの実態を学べる機会が多くあります。

実際に子どもたちと話してみると自分が思い描いていた子どもの姿と実際の子どもの違いに驚くことが多く、もっと子どもたちが楽しく学べる方法が知りたいと強く思うようになりました。

先生とは、児童の魅力に一番に気づくことができる職業だと思います。これからもかかわる人の魅力をすぐに見つけられる人であるように頑張ります。

### ※学びのひろば

「学びのひろば」は、「学生が子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、教員としての実践的指導力の基礎を身に付ける」ことを目的に実施している事業です。活動の企画・運営は、すべて学生が中心となり、所属する9つのクラブが「子どもたちの笑顔」のため徹底的な議論を重ね、年6回程度の活動日に、近隣の小学校に通う子どもたちとレクリエーションや野外活動、工作、運動、2泊3日の宿泊活動などを実施しています。



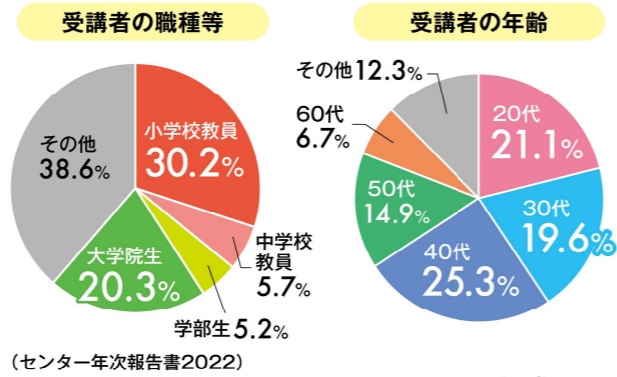
学部3年  
現代教育課題コース  
(学習臨床・授業研究領域)  
笠原 未帆 さん

学校教員養成・研修高度化センター  
(学教センター)

「良い先生を育て、良い教育を広めていくセンター」をコンセプトに、教育実習の推進及び効果的な運営、教員の研修等の開発など、教職生活全般において一体的な職能開発の支援を行っています。



各セミナーは学教センターでの対面方式、オンライン限定方式、ハイブリッド方式など、講義内容に合わせて様々な形態で行われており、興味を持ったセミナーに気軽に参加することができます。



現職の先生がたくさん！教育現場のリアルな話を聞くことができますね！



先生たちの「学びの場」  
「教職員のための自主セミナー」は、学校教員養成・研修高度化センター(学教センター)を主な会場として毎週水曜日の夜に開かれています。  
「講師も受講者も自主的に集まること」を原則として行われるセミナーの内容は多岐にわたります。専門性の高い研究内容が学べるものから、「教育実習生向け」「若手教員向け」など受講者の課題に沿ったテーマを扱うものまで、学校現場の課題に即したセミナーを幅広く開講しています。  
令和4年度は142回のセミナーが行われ、1607人が受講しました。現職の小中学校の先生だけでなく、本学の大学院生や学部生も多く受講するこのセミナーは、貴重な情報交換と意見交換の場になっています。

特集

先生だって学んでる！  
教職員のための  
自主セミナー



若手教員  
向け

若手教員育成セミナー

若手教員の悩みに寄り添い、ともに課題に向き合う

上越教育大学では、学校現場が抱えている教育課題を解決するために、現職教員等を対象とした「教職員のための自主セミナー」を開講しています。  
「講師も受講者も自主的に集まること」を原則として開講されるセミナーは、学校現場の教職員だけでなく大学院生や学部生も参加可能で、様々な立場の人がともに学ぶことができる貴重な場所となっています。  
今回は実際に開講されているセミナーから4つの内容を紹介します。

会場/学校教員養成・研修高度化センター  
定員/各回12人/無制限

「若手教員育成セミナー」は、採用から5年目までの若手教員等を対象に、教師力向上を目指すセミナーです。

各回ごとにテーマを定めており、「学級開き」「学級づくり」といった学級経営に関する内容から、「国語」「算数」等の科目について、指導の仕方や授業のポイントを学ぶものまで、さまざまなテーマで若手教員が抱える不安や悩みに寄り添っています。時にグループワークも交え、講師と参加者が教育課題をともに考えていきます。

講師の先生から



「若手教員育成セミナー」講師  
清水 雅之 教授

「学級づくりセミナー」では、学級での学習ルールを考えたり、明示されていない学級内ルールやマナーを通して、教員と児童生徒、児童生徒間の関係を見直しました。  
セミナーでは、参加者同士で取組や困りごと、悩み等を話し合うことを一番大切にしています。他者の取組が参考になるだけでなく、人に話すことで自分の取組を客観視できるからです。  
参加者同士、似た悩みを抱えていることがわかり、自分だけではなかったと安心することも多いようです。  
気軽にセミナーに参加して、多くの人と語り合ってください。

実施テーマ

令和4年度

- 学級開きセミナー
- 学級づくりセミナー
- 指導案づくりセミナー
- 2学期準備セミナー
- 授業づくりセミナー

令和5年度

- 学級開きセミナー
- 学級づくりセミナー
- 授業づくりセミナー(国語科)
- 授業づくりセミナー(算数科)
- 夏休み明けの授業・学級づくりセミナー
- 秋の授業・学級づくりセミナー
- 冬の授業・学級づくりセミナー

参加者の声

若手ながらに思っていることや不安に思っていることを素直に吐き出すことができ、自分の具体的な課題に気づくことが大事であることに気づきました。解決するためのアイデアを同じ若手からいただくことができたので、明日から実践していきたいです。

講師が学級担任だった時の考え方を具体的に伝えています





子どもと同じ気持ちになって「できた」「楽しい」を体感!

## けん玉セミナー

会場 / 学校教員養成・研修高度化センター  
定員 / 10人

どこの学校にも必ずあるけん玉は、集中力や困難を乗り越える力だけでなく、自己肯定感やコミュニケーション能力を高めることにもつながります。「昼休みに大勢で遊ぶのは苦手」といった子どもたちの居場所づくりにも最適です。こうした学校教育におけるけん玉の有効性を学ぶだけでなく、実際に子どもと同じ気持ちになって「できた」「楽しい」を体感してもらってセミナーです。



### 受講者の声

あっという間の90分で汗びしょりになりました。そして、こんなにも熱中している自分に驚いています。休み時間に気になる児童がいます。今日、体験した「できた!」という喜びを、ぜひ味わわせてあげたいと思いました。また参加して、もっと上達したいと思います。

### 講師の先生から

受講者から「学校に来て、子どもたちにも指導してほしい」という依頼を受け、セミナーで鍛えた学生を連れて出前授業を行いました。学生が小学生の前で堂々とけん玉の指導をする姿を見て、「セミナーで指導してよかったなあ」と感無量になりました。けん玉を引っ提げて、この春から学校現場で活躍しているという話を聞き、これからもけん玉のできる学生や教員を増やしていきたいと思いました。



「けん玉セミナー」講師  
栗林 育雄 特任准教授



「給食だより」や「献立表」を題材に学び合う

## 学校における食育の実践と評価

会場 / 学校教員養成・研修高度化センター  
定員 / 10人

このセミナーは、学校現場で行われている「食に関する指導」の事例等を持ち寄り、より効果的に実践を進めていくための方法や理論、そして食育の評価について参加者みんなで検討しているものです。今年度は3回のセミナーを通して、全ての栄養教諭が毎月考えている「給食だより(食育だより)や献立表」を題材に、効果的な取組方法を考えていきます。

### 受講者の声

栄養教諭によって、レシピ掲載や食育指導での様子など、それぞれ異なることを改めて学びました。

皆さんの食育だよりを拝見し、自分にはない視点や見やすさなど大変勉強になりました。

### 講師の先生から

本学に着任して以来、毎年このセミナーを実施し、今年で9年目です。これまで開催方法を対面→オンライン→ハイブリッドと柔軟に変えながら、今では、地域の栄養教諭の先生に積極的に企画・運営していただいています。全国各地から栄養教諭の参加があり、各地域の給食(食材・料理)の違いや「おたより」の伝え方の違いなどを学ぶことができています。



「学校における食育の実践と評価」講師  
野口 孝則 教授

幼児期と小学校の学びをつなぐ「語り合い」の場

## これからの保育と幼小接続を考えるセミナー

会場 / 学校教員養成・研修高度化センター  
定員 / 30人

このセミナーでは、幼保小の先生や院生が幼小連携のあり方についてグループでディスカッションを行います。毎回テーマに沿った話題提供を行い、遊びを通じた幼児期の主体的な学びを小学校につながる大切さや、各学校の取組の工夫などを話し合います。和やかな雰囲気の中、子どもが生き生きと活動できた事例を共有し、前向きな意見交換ができる場所です。



### 受講者の声

保育園の先生と小学校の教員が子どもの姿を語り合える機会はほとんどないので、このセミナーは貴重だと思います。子どもの主体性を伸ばすための関わりを考えることで、自分の実践を振り返るきっかけになりました。

### 講師の先生から

主催者はテーマごとの話題提供をもとに、参加者の議論が深まるようファシリテートを行います。幼小の先生方が膝を突き合わせて語り合うことでお互いを理解し合い、接続期の子どもたちの学びや遊びを支える援助のあり方について共通認識を構築する場になればと思います。

今年で4年目。毎回楽しみにして下さる方も多く、和気あいあいとしたセミナーです。お気軽にご参加ください。



「これからの保育と幼小接続を考えるセミナー」講師  
山口 美和 教授

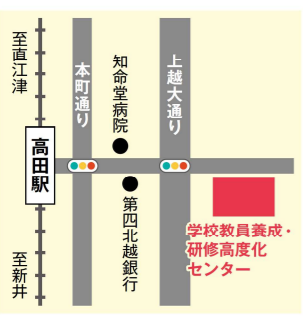
## センター長からのメッセージ

大学の教育・研究活動成果を自主的研修活動として還元

国際比較教育研究界では、日本の学校の先生方の力量の高さの要因として、教師集団の自主的な研修活動の存在があげられてきました。その象徴は、日本の先生方にとって当たり前であった「授業研究」が「Lesson Study」として世界で広まっていることでしょう。上越教育大学の自主セミナーは、日本の先生方が持つこのような研修文化に、大学の教育・研究活動及びその成果が連携し、学校教育現場が抱える諸課題の解決を図る協働的セミナーです。様々なセミナーを開設していますので、多くの方々の参加とご意見をお待ちしています。



学校教員養成・研修高度化センター長  
上越教育大学副学長  
志村 喬 先生



学校教員養成・研修高度化センター  
〒943-0834 上越市西城町1-7-2  
TEL / 025-525-9147

学校教員養成・研修高度化センターでは様々なセミナー等を行っています。詳細・お申し込みは、学校教員養成・研修高度化センターのホームページをご覧ください。参加費は無料です。

<http://www.educ.juen.ac.jp/>



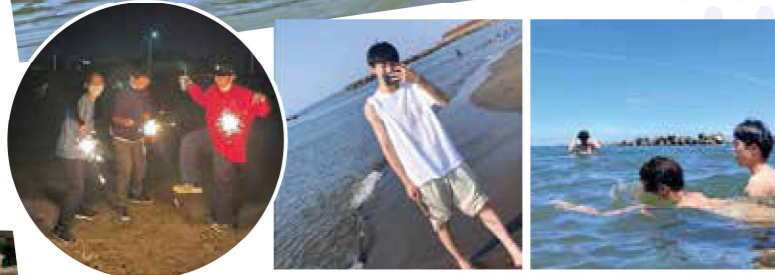
春夏秋冬

上教大生  
おすすめ!

# ドライブスポット

上教大生のおでかけにドライブは定番! 上越周辺の四季のおすすめスポットを紹介します。

## 夏は「海!」



### 3 直江津海岸

上教大から車で約10分、海岸沿いに続く道は最高のドライブコースです! 上越には海水浴場がたくさんあり、夏は県内外からの観光客で賑わっています。

### 4 うみねこテラス

海沿いにあるカフェで、美しいサンセットを見ながら食事をしたり写真を撮ったりして楽しむことができます! 波の音を聞きながら友人とまったりお喋りをしてきました。



3 4

1 2



妙高高原エリアはスキー場が充実!

## 春は「桜♥」

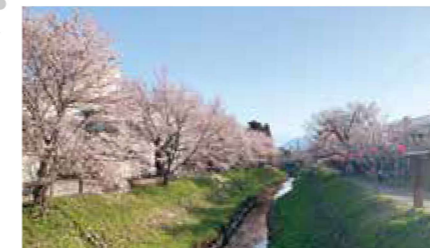
### 1 高田城址公園

日本三大夜桜と呼ばれるだけあって本当に美しいです! お昼の桜はピンク色が鮮やかで可愛いです。夜の桜はライトアップされ幻想的な姿に変身します。今年は3回も見に行っていました! 来年も楽しみです。



### 2 青田川の桜

青田川沿いには、約800mにわたる桜並木があります。賑やかな高田城址公園とは対照的に、静かにゆっくり散歩できる隠れお花見スポットです!



## 秋は「コスモス&紅葉」

### 6 黒姫高原

黒姫高原は、秋にはスキーゲレンデを利用し、100万本のコスモスが咲く「コスモス園」を開いています! その様子は圧巻で、インスタ映え間違いなしです!

### 7 苗名滝

紅葉の時期はまさに絶景!



5

7

6

妙高山

新潟県

長野県

野尻湖

黒姫山

### 編集後記

上越周辺の魅力を再確認・再発見できました。県外の人にとって上越はマイナーな所かもしれませんが、他にもいい所がたくさんあるので、多くの人に魅力を知ってほしいです! これからも上越の楽しいスポットを見つけて学生生活を楽しみたいです!

学部2年  
浅井 能在・大滝 菜津季・大平 蒼



# ソフトテニス部

## 初心者も楽しく

ソフトテニス部には、ソフトテニス経験者が多数在籍しています。しかし、初心者や中学時代だけやっていた人などもあります。ソフトテニスが上手い下手に関係なく、ただ楽しんでみんなでテニスをやりたい!という人たちが集まっているので部活の雰囲気はとても良いです。また、部活への参加を強いていないので、他の部活と兼部しやすい部活です。

## 学年を超えたつながり

ソフトテニス部の大きな特徴の一つとして、学年を超えたつながりが深いことが挙げられると思います。私たちは部活が終わった後にいつもご飯を食べに行くのですが、メン



バーはいつも違って、学年もバラバラです。この習慣が、上級生と下級生が入り混じって他愛もない会話をする機会を生んでくれます。また、時には学校のテストや授業の話だったり、進路の話だったり先輩から聞くこともあります。そして、部員全員で行うイベントも充実しています。ハロウィン杯、クリスマス杯、追いコン旅行などなど……。その年の代持ちの学年が中心となって企画運営をしますが、毎年競技や景品などが違うので、とても盛り上がります。活発な異学年交流が普段の雰囲気のよさの源になっています。

## 今後の目標

現在私たちは男女混合で行っていますが、女子の人数が極端に少ない状況です。経験者でなくても、ただテニスを楽しんでくれるということをもっと多くの人に伝えていく必要があると思います。また、秋には大会が控えているので、自分の満足のいくプレーが少しでもできるように日々の練習を頑張っています!



**DATA** 令和5年7月現在  
部員数/学部生25人、院生1人 計26人  
活動日/毎週水曜・土曜・日曜 ※冬季は水曜・日曜  
活動場所/体育館(水曜)、テニスコート(土曜・日曜)  
活動実績/ 秋季北信越学生ソフトテニス 大学対抗リーグ戦大会 出場  
【取材協力者】  
学部3年 学校教育実践コース 柄澤 周都

# 子ども食堂スタッフサークル

**DATA** 令和5年7月現在  
部員数/学部生38人、院生4人 計42人  
活動日/毎月第1、第3金曜、毎週土曜  
活動場所/南三世交流プラザ、願生寺、最賢寺  
活動実績/ 子ども食堂の補助、子ども食堂学習会の開催  
【取材協力者】  
学部2年 教科内容構成コース(国語) 樋口 大輝



## 子ども食堂について

子ども食堂とは、貧困家庭や孤食、ひとり親家庭の子供に対して、地域住民や私たち大学生のボランティア、また自治体が主体となり、子供が一人もしくは親子で利用できる、無料、または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する場のことです! 私たちが参加している子ども食堂では、地域住民の方がご飯を作っている間に、大学生が早めに来た子供たちと遊んだり、ご飯を食べ終わった後にも子供たちのお迎えが来るまで子供たちと遊んだりするなどの活動もあります。もちろん、食事中も学生は子供の周りと一緒に食事をして、子供たちと交流し信頼関係を築くといった、地域住民の方たちだけでは不足してしまう大事な役割を担っています。

## 教師の卵として

この活動は、大学から与えられる機会以外での子供と関わることでできる貴重な機会であり、加えて自主的に参加する意思がなければ参加できないというシステムからも教師としての心持ちや意欲が身につけられ、またほ

かで体験することのない経験値を得ることが出来る活動だと考えられます。また、子ども食堂を訪れる様々な子供たちと積極的に関わることで、実際に教育現場に出た時にも活用できる対応力を身につけることにもつながります!

## 新たな気付き

この活動に参加することで、今まで自分と身近な関係の子供としか関わってこなかった多くの学生も学校の授業で学んだり、ボランティアや教育実習で学校に行ったりするだけでは決して見ることのできない子供たちの自然な姿を見ることが出来ます。その様子から何を感じ何を考えるかは人それぞれですが、どの学生にとっても貴重な経験となっていることは紛れもないことです。



# 上越教育大学附属中学校の取組

民主社会の発展に寄与する、  
人間性豊かな、たくましい  
生徒を育成する

- 1 美しいものや崇高なものに感動する心を持ち、真理を不断に追求しようとする生徒を育てる
- 2 広い心と向上心を持ち、求めて共に実践する生徒を育てる
- 3 自ら目標を持ち、気力、体力の充実に努める生徒を育てる

## 研究校として

研究協議会の実施、教材開発、カリキュラム開発、授業公開



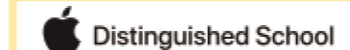
各教科、総合的な学習の時間で次世代を生き抜く資質・能力の育成



地域での探究学習



1人1台iPad、高速ネットワーク回線、大型モニター設置などICTを活用した教育の開発と発信



書籍「GIGAスクール時代の学校」を出版。

附属中HP▶



## 義務教育の学校として

学力向上に向けた学習会、個別指導

自主自立の部活動に向けた部長会の充実

生徒会の創造的活動を重視した特活時間の設定



自らの生き方と主体的に関わるキャリア教育、平和教育の推進



年2回の合唱コンクール、歓迎合唱、特設合唱部などを中心とした響く歌声の伝統



## 大学附属学校として

大学教員・大学院生による学校支援



幅広い進路選択の参考となる最新の研究との出会い



専門的な指導、多様化する部活動を支援する部活動指導員制度



スクールカウンセラー(公認心理師)による教育相談の充実

2023年度教育研究協議会  
期日 令和5年10月21日(土)  
内容 総合的な学習の時間  
「上越魅力発見ツアー」  
全体会、公開授業、  
教科別協議会  
会費 2,000円



マスコットキャラクター「ふぞくま」

当校は「確かな学力」「響く歌声」「あふれる探求心」を合い言葉にして、生徒も教職員も笑顔あふれる学校を目指しています。大学附属学校という強みを生かし、産学官の連携を強めながら特色ある教育を発信していきたいと考えています。秋に行われる研究会では、当校の取組の成果を見ていただきたいと思っています。多くの皆様からのご参加をお待ちしています。(文責:主幹教諭岩船尚貴)



修了生からの  
お便り



## 貴重な学びの経験を 未来に繋ぎたい

「思春期の子どもへの性教育について教えてください。」「子どもが最も身近に感じている相談先はどこだと認識していますか。」「講演の外部講師をお願いできませんか。」等々、現在も先生方や一緒に学んだ仲間との繋がりが続いています。私にとってこの繋がりは貴重です。平成20年より2年間、学校ヘルスケアでお世話になりました。修了から10年以上を経ています。

当時、学校現場で養護教諭として勤務しながら感じていた「子どもの力を引き出す健康支援の手立てや効果的な指導の在り方」や「養護教諭の果たす役割」を深めたいと思い、入学しました。現職経験をもちながら大学院で学ぶことは実践の裏付けや根拠を理論から紐解くような面白さも感じました。また、研究室では、養護教諭、一般教諭の他、栄養教諭や養護教諭、教員を目指す方等と共に学びました。授業やゼミ活動で、「子ども」「学校」「ヘルスケア」に関連する専門職が会し意見を交わした経験は、私にとって後に専門職連携について考える原点になりました。

学校現場に戻ってから子どもの成長過程をさらに追ってみたいという思いもあり、高校にも勤務しました。そこからは連続性の中にある子どもの成長発達や健康行動・課題と向き合うことや、養護教諭という職についてもっと追究したいと



丸山 幸恵  
(まるやま ゆきえ)

新潟県出身。大学教員。元養護教諭。新採用で松之山町立松之山中学校に着任し、中学校1校、小学校3校に勤務。その後、平成20年上越教育大学生活・健康系コース学校ヘルスケアへ入学。大学院修了後、小学校1校、高等学校2校に勤務。現在は、新潟医療福祉大学看護学部看護学科にて養護教諭コースを担当している。

「思春期の子どもへの性教育について教えてください。」「子どもが最も身近に感じている相談先はどこだと認識していますか。」「講演の外部講師をお願いできませんか。」等々、現在も先生方や一緒に学んだ仲間との繋がりが続いています。私にとってこの繋がりは貴重です。平成20年より2年間、学校ヘルスケアでお世話になりました。修了から10年以上を経ています。

当時、学校現場で養護教諭として勤務しながら感じていた「子どもの力を引き出す健康支援の手立てや効果的な指導の在り方」や「養護教諭の果たす役割」を深めたいと思い、入学しました。現職経験をもちながら大学院で学ぶことは実践の裏付けや根拠を理論から紐解くような面白さも感じました。また、研究室では、養護教諭、一般教諭の他、栄養教諭や養護教諭、教員を目指す方等と共に学びました。授業やゼミ活動で、「子ども」「学校」「ヘルスケア」に関連する専門職が会し意見を交わした経験は、私にとって後に専門職連携について考える原点になりました。

学校現場に戻ってから子どもの成長過程をさらに追ってみたいという思いもあり、高校にも勤務しました。そこからは連続性の中にある子どもの成長発達や健康行動・課題と向き合うことや、養護教諭という職についてもっと追究したいと

# 上教大 なんでも 掲示板

## 株式会社内田洋行との 包括的事業連携協定を締結



本学と株式会社内田洋行(本社:東京都中央区、代表取締役社長:大久保 昇)は、令和5年7月10日(月)、本学において包括的事業連携協定を締結しました。

本協定は、双方の資源を有効に活用しながら、AI活用を含む教育データの利活用や、教育・学習システムの開発・評価に関すること等の研究を促進すること等を目的に締結され、今後、教員養成の高度化に向けた多様な研究に役立てられます。



(株)内田洋行の大久保社長(左)と林学長(右)

## 物価高に対する経済対策支援 (消耗品等の現物支給)を実施

本学では、令和5年7月3日(月)から「支援物資配付」を実施しました。

本事業は、上越教育大学基金および日本学生支援機構による支援のもと、資源価格上昇に伴う物価高の影響により、厳しい生活を余儀なくされている学生への経済的支援を目的とし、実施するものです。

支援物資の中身は、食料品、上越市指定ゴミ袋、ボックスティッシュ、コピー用紙であり、3日間で440セットの支援物資が希望する学生へ手渡されました。物資を受け取った学生からは多くの感謝の声が聞かれました。



## 学生応援200円ランチを実施

本学では、令和5年7月3日(月)~7月21日(金)の間、第一食堂(百の花食堂)において「学生応援200円ランチ」を実施しました。

「学生応援200円ランチ」は、学生への経済的支援と食事を通じた健康管理に資するため、上越教育大学振興協会、上越教育大学後援会の支援のもと、一昨年、昨年に引き続き実施するものです。

対象メニューは「日替わりおすすすめ丼」「週替わり麺」の2種類で、本学学生を対象に合計2,500食分が提供されました。期間中、食堂は多くの学生でにぎわい、200円ランチを楽しむ様子がみられました。



# J-style 通信

## ロールモデルとしての教師

学長 林 泰成



「ロールモデル」という言葉がありません。それは、自分が生きるうえで模範とするような人物のことを指します。もし「あなたのロールモデルは誰か」と問われれば、私も何人かの人物をあげる事ができます。たとえば、中学生のとき

個々の生徒の能力に合わせてながらもクラス全体の能力を高めるような指導をしてくださった担任の先生、大学生のときからずっとお亡くなりになるまで哲学をご指導くださった先生、その先生とともに、しかしながら、その先生とは正反対のやさしい指導で教育学の研究へと誘ってくださった先生などです。

ロールモデルは、直接かかわりのあった人物とはかぎりません。私は、大学院ではウイトゲンシユタインという人物の哲学にのめり込みましたが、その当時は、「彼ならどう考えるだろうか」とよく想像しました。とはいっても、彼の人物や思考の癖は、伝記や哲学書でしか知りません。また、小説やアニメなどの架空の人物が、ロールモデルということも十分にありえます。

「いや、誰かをイメージして判断するのではなく、自分自身で自らの方向性を定めるべきだ」とのご意見もあるでしょう。けれども、ロールモデルがあると、具体的にイメージしやすくなりますし、判断がしやすくなります。倫理学者で経済学者でもあったアダム・スミスは、物事の是非を判断するために自らを客観視する「公平な観察者」を自らの心の中に想定することを唱えましたが、こ

れもロールモデルの一種と言えるかもしれません。

私は、自らが出会った何人かの人物をあげましたが、ロールモデルを一人に絞れないということもあるかと思っています。私の場合は、いわばモザイク的ロールモデルなのです。ある先生の高圧的な指導は、当時の私には効果的であったと思いますが、自分が指導者の立場に立ったときにはそのような方法はとりませんでした。けっきよくは、それぞれの人物のよいところを選んでロールモデルを作り上げていくのです。

私が例示した人物は全員が教師です。子どもたちにとっても、教師は、身近な大人ですから、ロールモデルになりやすいと言えるでしょう。では、皆さんが教師になったときに、あなたは子どもたちのロールモデルとしてどのような役割を担いたいと考えるでしょうか。子どもたちの目線で、ロールモデルとしての教師の在り様を考えてみるというのもよいかもしれません。

ロールモデルとしての教師は、最終的には子どもたちによって乗り越えられるべき存在です。教師は、驕ることなく、子どもたちが乗り越えていくのを支援する存在であってほしいと思います。

## 上越教育大学同窓会

### 上越教育大学同窓会 評議員会報告



令和5年6月1日に、上越教育大学大学院同窓会と上越教育大学学校教育学部同窓会は統合しました。そして、6月24日には、統合後初の令和5年度上越教育大学同窓会評議員会が、対面及びオンラインのハイブリッド形式で行われました。

会議に先立ち、林学長は挨拶の中で、昨今の大学を巡る厳しい状況について具体的に触れ、だからこそ、上越教育大学を胸を張って誇れる大学にしていきたい、との決意を述べられました。

議事では、コロナ対策特別補助として学生の就学支援事業に取り組んだことなどが報告され、令和5年度の役員が承認されました。

- 会長: 山本浩昭
- 副会長: 江口克也、遠藤和英、笠原芳隆、中澤和仁
- 理事: 五十嵐史帆、泉豊、大島崇行、大場浩正、榊原範久、佐藤多佳子、佐藤ゆかり、竹野欽昭、藤井和子、松井千鶴子、渡辺径子
- 監事: 中野博幸、秋山裕輝
- 評議員: 各都道府県支部から16名、大学院学生31名、学部学生15名 (敬称略)

令和5年度の事業計画では、これまで同様会員相互と上越教育大学との連絡を密にするホームページやデータベースの充実、各種の助成を進めることが決ま

りました。また、会計予算案では、同窓会統合祝賀イベント費が計上され承認されました。最後に同窓会会則の一部改正が行われました。改正により、事務上の諸手続のために、同窓会の事務局の所在地を明示すること、学部・大学院生の評議員選出の単位を明確にしました。

さて、これからも統合した新生上越教育大学同窓会の前途は厳しいものがあると思いますが、個人的な思いながら、最近改めて同窓会と現在の生活とのつながりということを感じています。漸くコロナ禍が収束し、久々に飲み会で集まる仲間は、やはり同期で大学を出た仲間、同じ教員をしている仲間が多いです。私たちの日常生活は、学生時代の仲間、そして同窓であるという事実と強いつながりがあるのだと感じています。全ての上越教育大学卒業生・修了生の皆様に「この会に関わり積極的に活用していく」という意識を持っていただきたいと思います。同窓会長として全くの微力ではありますが、上越教育大学の発展のために、同窓会の充実のために、尽力したいと思います。

上越教育大学同窓会会長 山本浩昭

### ご寄附のお願い - 教員養成を通して皆様の思いを将来ある子どもたちに -

#### 上越教育大学リサイクル募金

ご寄附の詳細などはこちら▼

[kishapon.com/juen/](http://kishapon.com/juen/)

上越教育大学 リサイクル募金

検索



#### 上越教育大学基金

ご寄附の詳細などはこちら▼

[juen.ac.jp/300kikin/](http://juen.ac.jp/300kikin/)

上越教育大学 基金

検索







# インタビュー 大学院で輝く人

大学院2年  
教科教育・教科複合実践研究コース  
自然科学領域(理科)  
菅原 智美 さん

## 入学を決めた動機

学部時代に幼稚園、小学校、中学校英語の2種免許を取得しましたが、大学では実践的な学びが多く理論を学ぶ機会が少なかったため理論的な教育論を学びたいと考え、大学2年の頃に大学院進学を考えました。初めは教育学を学べる大学院を探していましたが、ゼミの先生と話をしていくうちに、理論だけを学ぶのではなく、その理論が実践で活かされなければならないと考え、理論と実践の往還を目指している本学に入学しました。

## 実践力のある教員に向けて

岩手県で小学校の教員採用試験に合格しており小学校で働くことが決定しています。現在、学部の特性上深く学ぶことが難しかった理科コースに所属しています。研究室での対

話や学校支援プロジェクトを通して様々な知見を身に付け現場を意識しながら学びを続けています。学部では心理系に所属していたため、様々な児童の実態やその対応や発達段階について学んでいました。学部時代や大学院で学んだことを実践につなげられるように教員として頑張っていきたいです。

## 大学院での学び

理科分野の山田貴之先生の研究室に所属しており教育学について研究しています。自己調整学習に関する研究をしており、2022年9月に理科教育学会北陸支部大会で発表しました。現在は自己調整学習の3要素と批判的思考のパス図についての論文を投稿しています。その他、教材の開発や天体に関する知識の実態調査、主体的な学び等の研究に取り組んでいます。また、専門性を持って指導をしていくために英語の2種免許を

1種免許に、理科1種免許の取得に向けて授業を履修しています。

## 最後に

山田先生やゼミの仲間、理科コースの仲間との出会いに恵まれ、豊かな学びを得られ、とても感謝しています。



## インタビューを終えて

同じ理科コースの一員である菅原さんとは、同じ理科免許を取る仲間として、理科の授業で意見交換を行い私自身よい刺激をもらっています。常に研究を頑張っている姿がとても素敵で私も頑張ろうと思えます。

■ 聞き手・文(写真左)  
大学院2年  
教科教育・教科複合実践研究コース  
自然科学領域(理科)  
久我 洸平



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

アンケートにご協力ください  
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からご回答いただけます。アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に粗品をお送りいたします。



JUEN 上越教育大学学園だより  
2023 秋 No.50(令和5年9月発行)

編集・発行  
上越教育大学情報・広報委員会  
デザイン・監修  
安部 泰  
(芸術・体育教育学系 准教授)  
制作  
株式会社 桐朋

## お問い合わせ先

上越教育大学 広報課  
〒943-8512  
新潟県上越市山屋敷町1  
TEL 025-521-3626  
FAX 025-521-3627  
E-mail kouhou@juen.ac.jp  
URL <https://www.juen.ac.jp/>



上越教育大学  
公式 Facebook



上越教育大学  
公式 Instagram

公式ホームページから、  
バックナンバーの閲覧ができます。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

※本誌掲載の文書・記事・写真等の無断転載はお断りします。